

「ふえき通信」

障害者地域活動支援センター



まりなのレポート
インタビュー

ユニバーサルデザインって何？

〜皆で東京に行って駅を見てきました〜

3月8日、笛吹市地域自立支援協議会（障がい者が自立して生活できるための街づくりを目的とした活動を行っている会）当番者・家族部会のメンバーが都内の駅で、ユニバーサルデザインを見て触って体験してきました。様々な障がいがあり、様々な年齢層の参加者34人が互いに助け合い、また、ボランティアの協力も得ながら、体験旅行をしてきました。



山梨からリフト付バスにて、中央線国立駅へ行きました。国立駅ではストレッチャーも入る大きなエレベーターに乗ったり、多目的トイレを体験したり、点字ブ



そして、国立駅からは、自分で切符を買って、電車の冒険。新しくキレイになった東京駅で、迷子になりながら、楽しく、見学、散策をしました。

今回の体験旅行で得たものは、それは、駅やトイレのユニバーサルデザインの見学・体験でしたが、同時に皆の「心のユニバーサルデザイン」を感じられたことでした。

参加者の感想

● 初めて電車に乗った。（車椅子で乗っている）電車は横揺れがあつて怖かつたけど、皆が一緒に楽しかった。

【身体障がい】

● 始めて車椅子の方の介助をした。楽しい時間だった。【聴覚障がい】

● 精神に障がいをもつ二人に介助してもらった。大変だったが、点字ブロックや案内板を知ることができてよかった。【視覚障がい】

● 自閉の子どもさんとずっと一緒にいた。社会の皆は迷惑に感じる場面もあるだろうけれど、まずは、仲間の自分達が理解してあげなければと強く感じた。

【精神障がい】

● いつも「自分の子どもは自分が面倒見なくては」と思っていたが、参加者の仲間に介助していただき、自分が何もなくても子どもが本当に楽しそうだった。肩の荷が降ろせることがあるんだと感じた。

【参加者の家族】



一宮・御坂地区

障がい者地域交流事業



田建築所さんが板を提供してくださり、さらに、元老人クラブ会長の小池さんが、綺麗な虹を描いてくださいました。

この日は、御坂地域のボランティアが農園作業で共に作った大根や、一宮民生委員さんの差し入れてくれたりんごを使ったジャムのデザートが出され、また、工作や体操、ゲーム大会などが催されました。皆が大きな声で笑い、語らい、楽しい一日を過ごしました。



2月27日、一宮ふれあい文化館において、一宮・御坂地区での民生委員やボランティア団体の皆さん、地域で活動する障がいを持つ皆さんなどが集まり、地域交流事業を企画しました。

特に、今回は、「一宮夢心つせんがやっこ一宮に帰ってくる」ことができるといって、うれしい報告があり、参加者の皆さんが、「一宮夢心つせん」の新しい施設に掲げる看板に名前を書き込んでくれました。この看板は一宮町の依

皆の優しさに包まれた「障がい者地域交流事業」は、一宮・御坂地域とも毎年参加者が増えています。今年は総勢80人が参加しました。参加者の間に芽生えた「絆」。これをもっと強いものにしていきたい……と皆が願った一日でした。